

室内練習場を災害発生時やお年寄りの為に有効活用する

新たに室内練習場を設立するにあたり、何か他の形でも有効活用することはできないものかと思案していた。

当然、野球の室内練習場としての設備や機能は備えていることは大前提である。世の中は高齢化が進み、地域内での助け合いが重要となっていることは明白だ。そこで、地域の住民の方に寄り添うことができるような使い道として、以下の3つの方法での活用を宣言する。

1 災害発生時に近隣住民の一時避難場所

近年は、地震や台風など大きな災害に見舞われることが少なくない。そんな時に、自宅がとてもしめるような状態ではなかったり、非難が必要とされる状況になったときの一時避難場所として開放しようと考えている。いつ災害が起こるかは予測が難しく、普段から施設内は整理整頓を心がけ、設備の日常点検にも力を入れておかななくてはならない。いざという時に、トラブルが起こり一時避難場所として機能できなくては困るからである。

助け合いの気持ちを忘れずに、近隣住民の方々へ恩返ししたいとの気持ちも含め、一時避難場所とすることを宣言する。

2 備蓄倉庫として活用する

一時避難場所として開放するとともに、備蓄倉庫としても活用していく。災害時には物資が足りず、困ってしまう住民の方も多いはずである。そのため、普段から日用品・食料品・飲料水などの必要最低限の物資を保管しておく。その他にも、ラジオ・懐中電灯・発電機・救急箱も用意しておき、災害時には室内練習場に避難すれば安心できると考えて頂けるように非常用の物資確保に尽力することを宣言する。

3 高齢者のトレーニング施設

歳を重ねていくと、運動不足により転倒して怪我をするリスクが高くなる。それを防ぐためには体を動かすことが一番である。体を動かすことで心も体も元気になり、若返り効果も期待できるだろう。高負荷のトレーニングは行わずに、軽い負荷もしくは無負荷の運動をすることができる設備を導入したり、ランニング・ウォーキングコースの設定も行っていく。これにより、近隣の高齢者が気軽に運動ができたり、友人と談笑したりする憩いの場にもなるに違いない。野球の室内練習場としてだけでなく、高齢者が気軽に体を動かすことのできる施設にすることを宣言する。

さいごに

新たに建設する施設はやはり人の役に立つ施設にすることが重要であるとの結論に至った。人は一人では生きていくことは難しく、他人との助け合いが重要であると当法人は考えているからである。

普段は高齢者の憩いの場として使いつつ、災害時には一時避難場所・備蓄倉庫として活用することが近隣住民にとって大きな助けになるはずだ。

これからも地域に寄り添い、近隣住民に愛される施設として運営を続けていくことを宣言する。